



NPO 法人

茨城県防災士ネットワークだより

発行日 平成25年03月吉日

発行元 特定非営利活動法人

茨城県防災士ネットワーク

発行責任者 機関紙委員長

高橋 茂

3. 11のあの日から2年、未だまだ我々の深い記憶として残っている自然の脅威。東北3県の被災地では今でも深い爪痕が残ったままであり、当ネットワーク会員の中には今でも現地に赴いてボランティア活動をしているという方の話も聞く。一方、県内ではこの大震災の教訓を生かすための多くの防災啓発活動が行われた。本号ではこれらの内容を取り上げた。

1. HUG 実施状況

当会ではこれまで大震災前の平成22年度より、龍ヶ崎市を始めいくつかの自治体や自主防災組織に対して HUG(避難所運営ゲーム)による避難所運営の模擬訓練を指導してきた。今年度も下記に示すとおりいくつかの団体からの要請により実施した。(以下、敬称略)

- ・H24.12.06 城里町常北中学校 出席会員:黒田一雄、益子さや子、中村隆、福島末輝
- ・H25.02.03 小美玉市社会福祉協議会 出席会員:横山松夫、野村彰、中崎智雄、中村隆、福島末輝
- ・H25.02.09 同 上 (第2回)出席会員:坂 弘毅、渡辺 平、中崎智雄、福島末輝
- ・H25.02.24 牛久小学区地区社会福祉協議会 出席会員:横田信子、横山松夫、中村 隆、福島末輝

牛久小学区の皆さん



(写真提供:中村 隆氏)

小美玉市の皆さん



(写真提供:小美玉市社会福祉協議会)

HUG 研修風景

2. 県主催・防災啓発研修会

平成25年2月13日、上記研修会が結城市民文化センターで行われた。この研修会は、自主防災組織リーダーの研修を目的としており、参加対象者は県内の自主防災組織役員、消防団、行政や企業の防災担当者等であった。参加人数は当初350名程度の予定であったが、当日は500名を超える参加者となったことから会場を小ホールから大ホールに変更するほど盛況となった。

研修会は、水戸地方気象台 台長の「防災気象情報とひとりひとりの役割」、公益財団法人市民防災研究所の細川顕司氏による「自主防災組織結成に向けて」並びに当ネットワーク会員の益子さや子氏による「女性の視点から見た防災対策について」という演題で行われた。

益子さや子氏による講演内容は、家庭内における日常や女性消防団員として見た防災意識の在り方等について、女性ならではの感性による話であった。質問においても女性特有の質問が2件あったことより、有意義な

講演であったように思う。

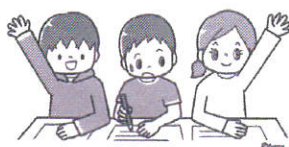
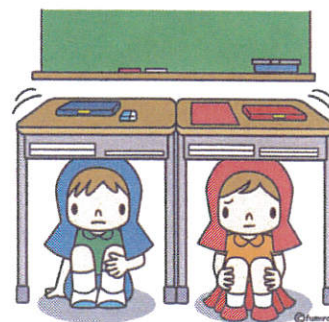


(写真提供:茨城県防災・危機管理課)

3. 学校における防災教室

今年度は後半になって、小中学校から防災教室の要請が目立った。依頼内容は、発災時の児童の行動の在り方や、学校と地域の連携について等が多かった。特に茨城県は海あり山ありで、海岸に近い学校では「津波」に対して、山間部や市街地部では「崖崩れや河川氾濫」に対して等、地域によって依頼のテーマが異なるために講演者にとって大変な労力となったと推定される。防災教室は、これまでつくば市を始め主に県南、県西地域での依頼が多かったが、今年度後半になって県北地域からの依頼が多かった。これは、大震災による津波の被害の影響からと推測される。以下に先号(第004号)以降に行われた防災教室を記す。

- ・H24.12.12 つくば市立小田小学校 講師:鈴木 勇 他1名
- ・H25.01.11 つくば市立竹園東中学校 講師:永倉喜代
- ・H25.01.16 城里町立常北小学校 講師:西村正夫
- ・H25.01.16 茨城県立盲学校 講師:中村 隆 他1名
- ・H25.01.17 かすみがうら市立宍倉小学校 講師:中村 隆 他1名
- ・H25.01.18 つくば市立吉沼小学校 講師:神郡正光 他1名
- ・H25.01.18 日立市立豊浦小学校 講師:井上亮一 他1名
- ・H25.01.28 かすみがうら市立七会小学校 講師:宮本博海 他1名
- ・H25.01.30 北茨城市立平潟小学校 講師:永瀬昭男 他1名
- ・H25.01.31 城里町七会中学校 講師:中村 隆 他1名
- ・H25.02.02 常陸太田市立水府小学校 講師:高橋 茂
- ・H25.02.04 かすみがうら市立千代田中学校 講師:黒田一男 他1名
- ・H25.02.05 茨城県立北茨城特別支援学校 講師:西村正夫
- ・H25.02.14 土浦市立中村小学校 講師:福島末輝
- ・H25.02.14 那珂市立第一中学校 講師:加瀬孝雄 他1名
- ・H25.02.19 那珂市立第四中学校 講師:高橋 茂 他1名



上記以外でも多くの学校で防災教室を実施していますが、紙面の都合で割愛させていただきます。



つくば市小田小における ICT*授業で
アドバイスする鈴木勇理事



那珂市第一中学校防災教室において
講義する加瀬孝雄会員

*ICT:Information & Communication Technology の略

4. 防災訓練に参加

去る2月24日、水戸市吉田地区自治実践会主催の防災訓練が実施された。この吉田地区における防災訓練は当ネットワーク会員である加瀬孝雄氏が中心となって企画立案から携わって3年前に立ち上げたもので、今回は3回目となる。当会は昨年参加しており、今年度で2回目の参加となる。

当会では、加瀬氏の他に志村謙一、渡辺 平、益子さや子、井上亮二の4名が参加した。



“「稲村の火」の紙芝居”コーナー



“液状化現象の模擬体験”コーナー

防災士ネットワーク展示テント風景

(写真提供:加瀬孝雄氏)

5. 県西生涯学習センター・ネットワークフォーラムに参加

3月3日に、県西生涯学習センター主催の上記フォーラムが開催された。本フォーラムにおいて、日本防災士会本部常任理事の橋本 茂 氏による「地域で防災力を高めるために今何をすべきか」と題して約2時間の基調講演があった。阪神・淡路大震災、東日本大震災におけるの自助・共助の重要性を力説された。当会からは、筑西市在住の広瀬 貢氏をはじめ、益子さや子氏他2名(計4名)が参加し、講演後に行われた3つの分科会のそれぞれに1名ずつが配置され、市民の人たちと一緒に市民目線で議論し貴重な経験をさせていただいた。

基調講演される橋本 茂氏



第三分科会の報告をされる
広瀬 貢会員



“3.11 あの日 わたしは”

平成21年3月11日の大震災から2年が経過しました。本誌では、震災当日の会員の行動の記録を残すとともに他会員への参考にもなると考え、会員から寄せられた記録を掲載して行く予定であります。先ず第一回は、城里町在住の皆川 泉氏の記録を掲載します。

東日本大震災の活動

NPO 法人 茨城県防災士ネットワーク
防災士 皆川 泉

2011年3月11日午後2時46分、私は水戸市松本町内の国道349号線、万代橋付近で東日本大震災の大きな揺れに遭遇。直ちに社用車を安全な場所に止めて周囲の状況を見回すと、橋のワイヤがゴム紐のように揺れているのが見え大変な事態であることを直感致しました。揺れが少し治まったのを見計らって周囲の把握に努めました。万代橋を挟んで那珂市側の道路が陥没、亀裂、段差があるのを確認。即、独自の判断で水戸市側の交差点で、万代橋に向かう交通の閉鎖を実施。交差点にはたちまち自動車等が溢れました。自動車、バイク、自転車、歩行者の安全を確保しながら誘導を行いました。通行止めの理由を問い質す人をはじめ迂回路を尋ねる人、どうしても那珂市側へ行きたい人、車を運転していた人には、道路左側の安全な場所に駐車して頂き、車のキーを付けたまま、ドアも鍵を掛けずに貴重品を持って徒歩で橋を渡って帰宅して頂くなど、午後10時頃まで行き交う人達の安全を確保する為に必死に続けました。やっと交通量が少なくなったので誘導をやめ帰社・帰宅しました。

翌日からは近所の被害状況を見て回り、地域住民の安全を考え、道路や通路側に倒壊した大谷石を撤去したり、屋根から落下・散乱した瓦の後片付けなどを手伝い、数日が過ぎました。

それまで車の燃料供給も不足がちでしたが4月に入ってガソリン供給も改善され、マイカーで津波、原発の放射線被害が甚大だった南相馬市へ災害復旧活動に出かけました。現地避難所では食事の用意や支援物資の仕分け等を手伝い、住民の方々には市職員と間違えられるくらい頑張りました。帰宅前日、放射線のスクリーニング検査を受け、身体の安全を確認した上で南相馬市長から礼状を頂戴して帰宅いたしました。その後も、岩手県大船渡市大槌町、宮城県石巻市男鹿半島、東松島市へと30日間に亘り支援活動を致しました。1年後の「3.11の日」にも宮城県の被災地を慰問致しました。今後も微力ではありますが、被災者に寄り添いながら現地復興に尽くしてまいります。

会員の皆様へお願い ; 「3.11あの日 わたしは」のテーマで会員皆さんが3.11の当日、またそれ以降に行動した記録を募集します。シリーズで掲載する予定です。原稿は、400～500字程度でお願いします。メールでもOKです。
送付先: 〒313-0038 常陸太田市小沢町 1455-2 高橋 茂 宛て Eメールアドレス s-takaha@xd6.so-net.ne.jp